

SONOSAX MiniR82

取材・構成／編集部
翻訳／ペーター加藤

SONOSAXはこれまでコンパクト・ミキサーなどを発表し、その多くが各国の放送局などで採用されるなど、高い技術力に定評のあるメーカー。先日、同社からコンパクトなハード・ディスク・レコーダーMiniR82がリリースされた。ここではこの製品についてCEOのジャック・サックス氏に聞いていこう。

コンセプトはコンパクトながら ハイクオリティな製品

先日、ポータブルレコーダーMiniR82 (997,500円)を発表したSONOSAXは、放送局／映画会社のスタジオを中心に使用されているコンパクト・ミキサーなどを開発しているスイスのメーカーだ。ジャック・サックス氏はNAGRAでの約4年間に及ぶ研修を経て、1977年に同社を設立。1983年発表のコンパクト・ミキサーSX-Sがアメリカの映画制作会社や放送局などに採用され、同社の名は広く知られるようになった。SX-Sは高いサウンド・クオリティに加え、ボディがコンパクトかつ頑強ということもあり、野外で機材を使用することの多い放送局などに受け入れられたのだ。ほかにもDAコンバーターやマイクプリアンプ、パワー・アンプなどSONOSAXの製品はどれもコンパクトなところが特徴である。氏は同社の製品のコンセプトについてこう話す。

「サイズが小さければ小さいほど場所を選ばずに使用できる。野外などさまざまなシチュエーションでの使用を考えると持ち運びが便利なおに越したことはありませんからね。小さな製品

は用途が広がりますが、大きくなると用途が狭まると考えています」

MiniR82にも“コンパクト”というコンセプトが引き継がれており、そのサイズは文庫本を少し小さくした程度。しかも、8トラック仕様で24ビット／192kHzに対応、内蔵ハード・ディスクは30GBでコンパクト・フラッシュに対応するなど、そのサイズから想像できないほどハイクオリティなレコーダーに仕上がっている。

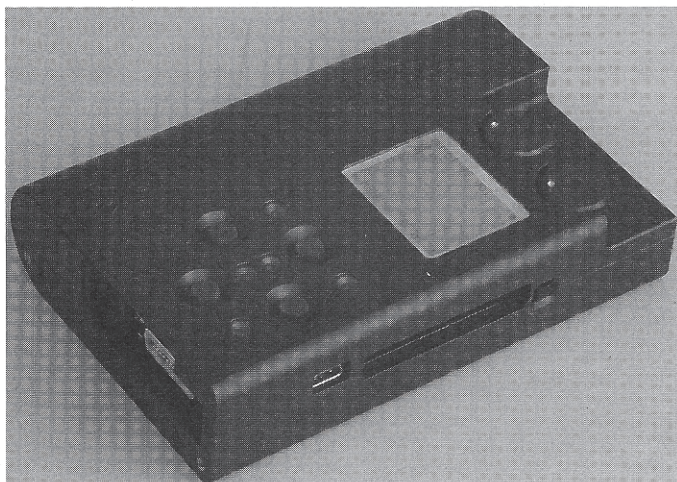
「MiniR82を開発する際にイメージしたのは最近の携帯電話やデジタル・カメラです。これらの製品はポケットに入るほどコンパクトなものにもかかわらず、高性能／多機能で操作性に優れたものが多い。そこで、ポケットに入るくらいのサイズの小さなハード・ディスク・レコーダーにもさまざまな機能を詰め込むことができるのでは？と考えたのです。弊社はこれまでDATレコーダーをリリースしたことはありますが、ハード・ディスク・レコーダーの開発は初めての試みでした。そんなこともあり、当初は2トラック仕様の製品を考えていたのですが、開発を進めるうちに、最新のテクノロジーや弊社独自の技術の数々を取り入れれば私たちが想像していた以上にハイクオリティ

な製品に成りうるということが分かったのです。そこで、サラウンドへの対応を考えて、トラック数を増やすという発想が生まれました。MiniR82の完成品を見ていただければ分かると思いますが、こんなにコンパクトで、これほどのスペックを誇るハード・ディスク・レコーダーはなかなか無いのではないのでしょうか」

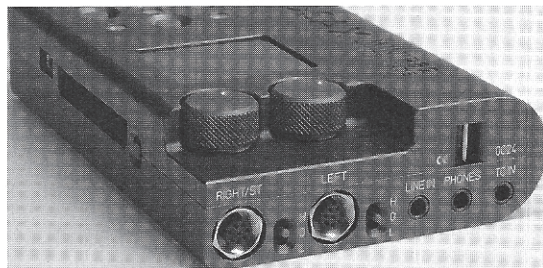
独自の回路設計によって クリアなサウンドを実現

MiniR82のボディはアルミ製で、ほかのSONOSAXの製品と同様に耐久性に優れているところも大きな特徴である。氏にMiniR82の耐久性について聞いてみたところ、突然MiniR82を約1mの高さから床にめがけて落とし始めた。床に落ちたMiniR82を拾い上げ話し出す。

「マネはしないでくださいいね(笑)。ただ、これくらいの高さから落としてもノー・プロブレムです。とても強固なので、多少ショックを与えても中の回路を守ることができるはず。弊社の製品はテレビ局などで使用されていることもあり、耐久性は特に気を付けなければいけない重要な要素なのです。彼らは雨が降ろうが、とにかく現

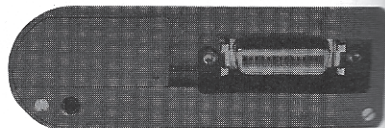


▲SONOSAX MiniR82のサイズは120(W)×28(H)×80(D)mmとコンパクトで重量は430g。単三電池×3本で3.5～6時間駆動する。記録メディアは内蔵ハード・ディスク(30GB)およびコンパクト・フラッシュに対応。USBでコンピューターと接続可能で、記録したデータを転送できる



▲右サイド・パネル。FRANZ BINDERのコネクターが採用された入力部とリミッター設定用スイッチ×2、ライン入力(ステレオ・ミニ)、ヘッドフォン出力、タイム・コード入力と並ぶ。リア・パネルにはコンパクト・フラッシュ用入力とUSB端子を装備。なお、FRANZ BINDERのコネクターに付属ケーブルを接続することによってファンタム電源対応のアナログ入力(XLR)に変換できる

▶左サイド・パネルにはデジタル入力(AES/EBU)およびタイム・コード出力用の付属コネクターを接続するための端子が用意されている



場で取材をしなければなりません。だから、ボディには防水加工も施しています。水中での使用は不可能ですが、少々ぬれるくらいであれば全く問題無く使用できます。それにMiniR82のボディは私たちがアルミの固まりを削り出して作っているんですよ。会社を設立してから10年ほどは外部の職人にアルミの削り出しを依頼していたのですが、どうしても私たちが満足できるクオリティにならなかった。そこで、専用の機材を導入して、自分たちでボディを加工し始めたわけです。なお、MiniR82のボディの加工には昨年に弊社が導入した新しい機械を使っています」

氏は「ボディ以外にもこれまで培ってきたさまざまな技術が採用されている」と話を続ける。

「例えばマイクプリア内蔵のタイム・コード・ジェネレーターには弊社が設計したICが組み込まれていて、いわゆる汎用的なパーツは使っていません。汎用的なパーツを使えばそれで済むのでは？という意見もあるかもしれませんが、それではわれわれが満足できるクオリティにはならない。弊社は20年以上にわたって培ったパーツに関するノウハウがあります。詳しく説明すると……一般的にさまざまなパーツを組み合わせで構成されるディスクリート型回路は、すべてが1つにまとまった総合回路よりも優秀と言われています。前者を採用した場合、複数のパーツを組み合わせるには当然さまざまな選択肢があるのですが、私たちはその選択のためのノウハウがあるのに加え、独自のパーツを作る技術があるので。しかし、設計は難航し、結局4回も回路を作り直すことになりました。こんなに小さなボディに回路を収め、しかもクオリティは妥協したくない……その辺りはとにかく苦労しましたね。話が技術的になり少々難しくなりましたが、とに

かくマイクプリアについては良質でクリアなサウンドを目指しました。このサイズで実現できる最高の音質を得ることができるはずですよ」

入出力端子をシンプルにすることでコンパクト化に成功

しかし、すべてのパーツがSONOSAX製というわけではなく、例えば右サイド・パネルの入力部のコネクタはFRANZ BINDERというドイツのメーカーのものが使われているという。

「サイズや品質、耐久性などFRANZ BINDERのコネクタはとて優秀です。コンパクトなボディにさまざまな入力端子を搭載するのは難しい。しかし、MiniR82に採用したFRANZ BINDERのコネクタは変換ケーブルを使用することによって、ファンタム電源対応のアナログ入力(XLR)に変換できます。また、私たちはコネクタを手でハンダ付けしているのですが、FRANZ BINDERのコネクタはハンダ付けが容易なところも採用の大きな決め手になりました」

なお、左サイド・パネルのコネクタに付属のケーブルを接続するとデジタル入力(AES/EBU)およびワード・クロック入力として使用可能。つまり、MiniR82は本体の入出力端子こそ少ないものの、付属のケーブルを接続すれば、豊富な入力端子を持つことになる。そういった仕様になっているからこそ製品のコンパクト化に成功しているのだ。一方、出力部はヘッドフォン出力しか用意されていない。

「例えば、野外でレコーディングした素材をその場で確認する際、大きなスピーカーで音を鳴らすことはあまりありません。現場ではヘッドフォンで音を確認できれば十分だと思います。それに、MiniR82はUSBを介してコンピューターに

データを送り、DAWで素材を編集することを前提に設計しているの、あえて出力はヘッドフォン出力だけにしているのです」

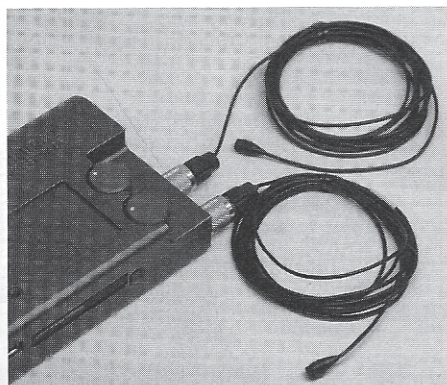
直感的な操作を実現するシンプルなインターフェース

MiniR82の操作子はパネルを見ても分かるように4つのスイッチと2つのツマミのみと非常にシンプルなものになっている。氏は「操作子の数は少ないですが、MiniR82の操作はとてシンプルです」と言い、操作を実演してくれた。

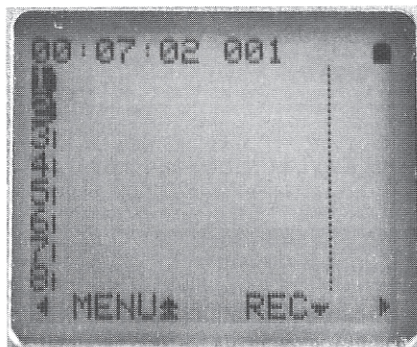
「パワーをオンすればすぐに録音できる状態になります。例えば、MiniR82に複数のマイクを入力して録音する場合は、液晶画面のマトリックス画面を見ながら、どの入力をどのトラックにアサインするかをスイッチで設定して、あとはツマミで録音レベルを決めるだけです。なお、液晶画面は10行×17文字の表示が可能で、トラックの情報や録音レベルなどが表示できるようになっています。先述の通り、DAWとの併用を前提に設計しているのでエディット機能はほとんどなくて、ファイル名の設定くらいしかできません。MiniR82はエディットするには小さ過ぎますからね。それに私はマニュアルを熟読しないと使えないような製品はあまり好きではありません。直感的に使用できる製品を目指しました」

氏の哲学、同社の高い技術が詰め込まれたMiniR82。もともと放送局向けに開発された製品だが、氏は「使い方はユーザー次第」と話す。

「ぜひ実際にMiniR82の触れて、その実力を自分自身で確かめてください。弊社は親会社などに支配されていない完全に独立した会社で、小規模ではありますが、MiniR82には弊社の最高の技術を投入しています」



▲右サイド・パネルのFRANZ BINDERのコネクタは写真のように変換することによってマイクなどを接続することができる



▲液晶画面。写真のように各トラックの入力レベルを監視できるほか、各入力ソースをアサインするトラックの設定などが可能



▲SONOSAXのCEO、ジャック・サククス氏